

第7回委員会の主な検討内容

- 市民科で追究していく学習テーマについては大体の枠組みを示し、学校がその中からいくつか選択してカリキュラムを構成していければよい。
- 武蔵野市民科では、「自分ができることは何か」という視点がなければ、学習テーマを組み合わせてカリキュラムをつくっても意味がない。
- 武蔵野市民科で育む資質・能力にはどのようなものがあるかを確定させる必要がある。その際、今回の研究授業で提案のあった思考ツールなど小学校から中学校へつなげていけるよい。
- 武蔵野市民科としては、学びに向かう力としての人間性や市民性をどう高めるかを特にねらっていく必要がある。
- 市民科を実施する際に、どの先生も魅力ある授業になるようベースとなるものを用意する必要がある。
- 中学校の場合、受験があるが、市民科はさらにその先を見据えた学習であることを気付かせていきたい。
- 実施学年は、小学校での武蔵野市のよさや課題など基礎的な部分を踏まえ、中学3年まで視野に入れ、各校でオリジナリティのあるカリキュラムをつくっていけるとよい。